

尾瀬ネットワーク通信

Vol 11. No. 4 2009年2月



目次	
2008年度の活動からみた尾瀬の課題	1
指導員養成講座 修了者レポート	2
尾瀬自然講座:モウセンゴケ	3
救護研修会の開催について	4
事務局よりお知らせ	4
事務局だより	4

2008年度の活動からみた尾瀬の課題

～携帯電話基地局、野生ジカの食害、携帯トイレ～

理事長 永島 勲

携帯電話基地局問題

特別保護地区内への携帯電話基地局反対の署名運動は、「尾瀬を守る会」の構成4団体(注)によって7月から11月までの5ヶ月間にわたり実施した。

人命救助という美名に隠れて問題の本質を見逃してはならない。携帯電話等、都会の利便性や人工物を安易に持ち込むことは尾瀬の自然をないがしろにした愚行であり、これらは尾瀬の観光国立公園化に繋がり、貴重な尾瀬の自然価値を消失させ、尾瀬の歴史に大きな汚点を残すことになる。

「静かな尾瀬を守ろう！」のスローガンの下に、御池、沼山峠口、鳩待峠の各入山口における現地署名活動と地域社会における署名活動により、入山者等から沢山の心強い賛同を頂戴し、4,923名の貴重な署名を頂いた。署名簿は12月18日に環境大臣宛に、また本年1月13日には群馬県知事宛に、それぞれ提出して携帯電話基地局設置反対の意思表示を明確に伝えることができた。

これまで、温かいご支援をご頂戴した入山者及び関係各位並びに署名活動に積極的にご協力を頂いた会員各位に改めて厚く御礼を申し上げたい。

深刻化する野生ジカの食害

昨年3月に本会で発行した調査報告書「尾瀬ヶ原にシカを探す」～シカ調査8年の歩み～の調査結果からも尾瀬の野生ジカの個体数が年々着実に増加していることは明白だ。

個体数の増加につれて高山植物の食害やスタ場、シカ道等による湿原の荒廃(掘り起こしや裸地化)が至る所で目立つようになってきた。

昨年のおお江湿原のニッコウキスゲの花は食害等により全滅に近い状態だった。繁殖力の強い野生ジカをこのまま放置しておけば、近い将来湿原の

生態系は壊滅的な影響を受け、特定の種の絶滅を招くことは、他山域での事例からも自明の理である。

今、私達は植物や動物が相互に生態系のバランスを如何に安定的に保つか、という難しい問題を突きつけられている。野生ジカの食害等から湿原の植生を護ることは、繊細で豊かな生態系の崩壊を阻止し、貴重な尾瀬の自然を後世に伝えるために、極めて重要かつ喫緊の課題である。

環境省はこれまでの方針を転換し、特別保護地区内でのシカ捕獲の方針を打ち出した。また、大清水の北東方面に試験的にシカ柵を3.7Km設置した。

今後、科学的データに基づく計画的な個体数調整と防除対策の実施、それらを検証する継続的なモニタリング調査等、保護管理体制の整備が急務であり、頭数削減を含めた強力な対策が望まれる。

携帯トイレ問題

至仏山の保全対策は残雪期の全面入山禁止、東面登山道の登り一方通行化等、一部に具体策の進展も見られるが、し尿問題や荒廃した登山道の付替え、植生復元など、根本的対策は遅々として進んでいない。

特に至仏山は入山者が多く、トイレ問題は深刻である。利尻山や羅臼岳のように携帯トイレ利用システム(入山口での携帯トイレ販売、ブースの設置、下山口の回収ボックス等)を早期に導入し、入山者のし尿問題の抜本的解決を望みたい。

(注)「尾瀬を守る会」の構成4団体
山林保護全国ネットワーク、福島県自然保護協会、尾瀬自然保護指導員福島県連絡協議会およびNPO法人尾瀬自然保護ネットワークの4団体

指導員養成講座 修了者レポート

感想文

亀山 良吉

今回の研修会お世話になりました。

これまで尾瀬には何回か行きました。最初はたしか今から40年前頃のこと、夜行で上野駅から沼田まで行き鳩待峠から歩いたコースだと思います。ミズバショウと残雪の尾瀬であったことが思い出されます。

それから数回、友人や職場の人々と行きましたが、いずれもミズバショウ、ニッコウキスゲなど代表的な花々の群生のすばらしさを見るだけの旅行でした。観光ポスターに踊らされたのだと思います。ですから、これまでは新聞等のニュースで報道された長蔵小屋のゴミ問題、鹿の尾瀬への侵入と食害、オーバーユース等々の話題の一端は聞いておりましたが、依然尾瀬の美しさ、何か心を癒される尾瀬としか尾瀬のイメージに思いはなかったかと思えます。

今回研修会に参加して、尾瀬の好シーズンははずしていましたが、尾瀬のイメージ通りの尾瀬で期待通りのものでした。それは尾瀬の正面の姿ですが、それだけではなく、尾瀬の裏面の姿もはっきりこの目で確認した研修会であったと思います。とりわけ沼尻のゴミ捨て場は身震いがするほどのショックを受けました。何たる光景、何か第二次大戦のユダヤ人の強制収容所であるアウシュビッツ収容所の光景が重なりました。サビた空缶、ブルタブ、空ビン、それが何重にも積み重なった状況は単なるゴミ捨て場と言いつつはすまされないものです。まさに、尾瀬の恥部、観光化された尾瀬の姿の一部だと思いました。

何としても取り除き、本来の尾瀬の姿に戻すことが、すばらしい尾瀬を取り戻す原点ではないでしょうか。

今回の研修会を通して、尾瀬のすばらしさを残すために“尾瀬は不便さがある尾瀬である”をモットーにして、これからも尾瀬を訪ねていこうと思いました。その際、今回のゴミ捨て場の現状を多くの同行者に見ていただき尾瀬の本来の姿を取り戻すことに考えがおよび共に行動してくれるようにしていきたいです。

ありがとうございました。

尾瀬自然保護指導員養成講座に参加して

大山 昌克

自然保護運動の原点とも言われる尾瀬地域の現場において、「尾瀬の成り立ち」、「植生の状況」、「水利権の歴史」、また「関係公的機関の動き」などを具体的かつ丁寧な説明の研修を受け感謝しています。まさに「尾瀬学」の研修であり、その研修内容にも満足感があります。

まず、「室内研修」から始まった講座では、わかりやすく整理された資料をご用意いただき、また3日間に渡る現地研修では「講師」より草木の植生、湿原・森林の遷移、哺乳動物の分布、繁殖状況、河川の水利、四季の植生状況に至るまで丁寧なご教授をいただきました。特に戦後の自然保護運動の歴史、現在に至る保護・啓蒙活動においては、実践の中心にいた講師ならではのエピソード、事例までご披露され、「講師」として共に自然保護活動の「闘士」を感じるレクチャー内容でした。

私自身、雄大な景観と「盛りの時季」の水芭蕉、キスゲ、ワタスゲ、また早春のオオカメノキ、実生・紅葉のブナ、トチノ木などを求め、過去に何回となく家族や友人と尾瀬散策をした経験がありました。また燧ヶ岳、至仏山登山も思い出ですが、今回の「尾瀬学」研修では尾瀬の将来性を大いに考えさせられ、また現実の状況・実体に啞然となるなど、別の角度よから「尾瀬」を再確認しました。

講師の方のお話には説得力があり、早急なる湿原保護の施策、生物多様性保全状況に対する危機感がダイレクトに伝わった研修であり、加えて継続的な保護活動に対する啓蒙の必要性などを余りあるほど感じる内容でした。

また、異なる道を歩んできた研修生同士の語らうも貴重な経験になりました。現実の「尾瀬学」をフィールドで学びまた情報を共有しつつ、夜間は部屋において率直に語り合うなかで実感したことは、尾瀬を思う気持ち＝心は同じ方向をむいていることでした。誰が、どのような方法で、この「なくてはならない貴重品」を後世、次世代に繋げていけばいいのか。また、実際自分たちは様々なしがらみと時間的制約の中で、どこまで出来るのか、など悩みます。また半分後ろめたさを感じながらの語らひでした。現状の危機を乗り越え、次世代に持続可能な生態系をいかに残すか、(残せるか)今が試金石なのであろうと改めて認識できました。

雨の尾瀬は肌寒さを感じ、晩秋の中で寒さに堪えて尾瀬を歩いていると思わず錯覚してしまいそうほどでした。ましてや8月という「夏」はどこかに忘れていました。この季節違いの肌寒さと、目の前にある脆弱な尾瀬の将来性を重ね合わせ、思いめぐらしていた人は私だけではないと思えます。山小屋のこと、日本ジカのこと、尾瀬入山者数の偏りのこと、難しい植生復元のことなど一筋縄ではいかぬ問題が多々あります。また「負の遺産」と称しながら“行為者”不在の手弁当・ゴミ処理など、詭弁と欺瞞・不法行為に対し、穏便に事を済ませようとする「仲良しクラブ」の実態を聞くにつけ、寂しさを乗り越えて「怒り」に近い

ものも感じました。

平成20年7月から実施された指導員養成講座に参加する機会と、これを通して共通の問題意識を持った仲間との出会いに感謝しています。ありがとうございました。

室内と現地の講習を受講し感じたこと

千葉 早苗

今回、尾瀬自然保護指導員養成講座を室内講習と8月22日から2泊3日の現地講習を受講し感じたこと。尾瀬全体が狭くなり、地塘の数も減少したように思えた。湿原や至仏山の荒廃、シカによる湿原や植物の被害、ゴミ問題や過剰利用による生態系への悪影響……

講師の方の説明や、自分の足で歩き目で見て、今の尾瀬は自然破壊の末期に近い状態。。。沢山の問題を抱えていることを実感しました。

近年の気象（温暖化、他…）の変化による動植物の生態系の崩れによるものも少なくないと思われるが（鹿の異常な増加、元来尾瀬には無い植物の増殖…）、人間による尾瀬自然破壊も少なくない。一度壊れた自然、人の手での復元不可能な現実。問題も山積、その中、これから尾瀬の自然破壊を少しでも緩め、一日でも長く次世代に自然の「宝庫」尾瀬を残して行くには、今できることを進めなければならないと思う。

尾瀬は、日本国内のいや世界全体の自然破壊の氷山の一角だと思う。その尾瀬に魅せられ通い始めた以上、私はこれから先の尾瀬を見ていきたい。どんな形でも関わって行きたい。そういう気持ちになりました。

今出来ること、

携帯電話の基地局建設の反対／機会あるごと、入山指導／入山規制、入山料の徴収／特別保護地区の鹿捕獲／ゴミの撤去／トイレの有料化／鳩待峠までは一般車の完全乗り入れ禁止／至仏山東面道の完全通行禁止（鳩待峠から往復する）／荒廃地の植生復元／尾瀬の今の状況をもっと世論に訴える。／他……………

現地研修感想文

熊田 順子

鳩待峠で3名の指導員養成講座担当の先生方のご指導で自己紹介と研修の心構えと研修予定について説明があり、その後準備体操をして研修開始となりました。いろいろな植物・湿原と池塘・至仏山と燧ヶ岳の成り立ちの違い・鹿の食害やヌタ場・クマ防止の鐘と高架木道等について参加者が理解できるまで丁寧に説明があり、観察時間も十分にあり、今まで知らなかったことを数多く理解することができました。尾瀬に対する思いがさらに膨らんできました。

尾瀬ネットワーク通信（8月号）に「ミヤマシグレ」の記載があり、手持ちの図鑑で調べたがどの本にも記述されてなかった。今回は実物観察の機会であるので、これだけは忘れずに質問して教えていただこうと考えていました。尾瀬沼の小屋周辺で教えていただきました。また、サワギキョウの花盛りで「紫色の流し絵」か「富良野のラベンダー畑」を眺めているような感じであり、自然はいつ来てもその都度に新しい風景を見せてくれて二度と同じことはなく、いつも感動を与えてくれることも改めて味わいました。

はじめて尾瀬に入った時と、今回の研修で観察した尾瀬を考えると良くなった件・悪くなった件が見受けられるのは当然のことですが、そのなかでも特に残念に思うことは、外来種がわがもの顔ではびこり、尾瀬にすれば見られると楽しみにしていた植物（パイカモ）に出会えなくなったことです。

「尾瀬はそろそろ寿命が来ていることも考えられます」とお話がありましたが、尾瀬も私達も限りある命を大切にしたいものだと思います。

研修の機会を設けてくださいました尾瀬ネットワーク関係の皆さま・責任ある講師として直接ご指導くださいました講師の方、また、ご一緒いたしました会員の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。

～尾瀬自然講座～

指導員 深山 美子

はじめに

最近身近なところからどんどん自然が失われ、自然に接して感動することが少なくなりました。

尾瀬には、悠久の時を重ねた多くの貴重な自然がいきづいています。山の花の魅力は色とか形ではなく、厳しい過酷な条件のもとで、環境に順応して色々進化し、毎年花を咲かせ子孫を残すという強く生き抜く様に心を打たれます。自然の素晴らしさを知らずして自然保護は語れません。

今月号より尾瀬の植物を紹介しますが、時にはよく目にふれる身近な野草も紹介していきたいと思えます。

尾瀬の植物（1）

虫を食べてしたたかに生きる植物 モウセンゴケ（モウセンゴケ科）

モウセンゴケの葉の縁と内側には、200本ほどの腺毛が生えており、その先から粘液をだして虫の来るのを待ちます。粘りつけられた虫はもがくほどにそれが刺激となって粘液の分泌を促し、

葉を巻き込み確実に虫を捕らえます。



粘液中にはアルデヒド（麻酔）で徐々にマヒさせ、続いてエンドペプチターゼという消化酵素を出して虫の体液や筋肉、内臓等のタンパク質を長時間（7～8日）かけて分解し消化吸収します。

虫の殻はそのまま残され雨や風で飛ばされます。

種子は非常に小さくて周囲にまき散らされます。種子が微小なのは環境の異なった遠い所に飛ばないように厳しい自然環境の湿原で生抜くための植物の知恵なのです。

植物の生育には光合成により自ら作り出す養分の他、根から吸収するチッソ・リンサン・カリ等が必要です。しかし、湿原のように土中から吸収できる養分は乏しいので、生きるため不足する栄養分を虫から補うという形で進化していったのです。

写真・参考資料：食虫植物とふしぎ植物・日本の山野草
成美堂出版 花からたねへ 全国農村教育協会

～救護研修会の開催について～

尾瀬での活動時にけが人への応急処置を行う場合があること、また活動時のリスクマネージメントの一環として救護の知識が必要であるとの認識から、尾瀬のシーズンが始まる前に基礎的な救護研修会を実施します。奮ってご参加ください。

実施日：H21年4月25日（土）13時～16時

場所：ジャンダルム

講師：看護師、赤十字救急員の資格を持つNW
会員（指導員）を予定しています。

（前田 佳胤）

＝事務局よりお知らせ＝

《お礼》

①伊藤 アケミ様より沢山の切手のご寄附を頂きました。会報の発送に使わせていただきます。ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

②牛木様より本を寄贈されました。

著者：練馬区公園緑地課、牧野記念庭園開局50周年、「花在ればこそ 吾も在り」

《21年度スポーツ安全保険の変更》

◎補償内容の拡充

障害保険 入院 通院を1日目から補償（従来：治療日数4日以上が必要）

賠償責任保険 補償額を身体・財物賠償合算額に変更、免責金額の廃止（従来：身体・財物賠償別枠、免責金額1000円）

共済見舞金 突然死の保障額を180万円に引き上げ（従来：160万円）

◎加入区分・掛け金の変更

団体の区分けを廃止し加入者ごとに加入区分を選択いただくように変更となります。

①加入対象者：大人のスポーツ活動、加入区分：C、掛け金：1600円、死亡：2000万円、後遺障害：3000万円、入院：4000円、通院：1500円、賠償責任：身体・財物賠償 合算1事故5億円、共済見舞金：180万円

②加入対象者：65歳以上、加入区分：B、掛け金：800円、死亡：600万円、後遺障害：900万円、入院：1800円、通院：1000円、賠償責任：身体・財物賠償 合算1事故5億円、共済見舞金：180万円注）加入者が選択します。4月1日満65歳以上の方でもCを選択された方はCの保障となります。

《2009年度定期総会》

*日時：2009年4月18日（土）13:00～17:00

*会場：大宮ソニックシティ「902号室」

*議題：①2008年度活動・会計・監査報告

②2009年度活動計画・予算

③その他

*特別講演：NACS-J 辻村千尋様

「国立公園の抱える課題と解決に向けた新たな取り組み」

事務局だより

①11月15日 日本勤労者山岳連盟主催

「地球温暖化と山岳自然への影響について」

講師：西岡 秀三 永島 椎名

②12月11日 大石先生と語る会 永島 椎名

③12月16日 尾瀬を守る会 高橋 椎名

④12月18日 環境省署名簿提出 永島 高橋

⑤12月25日 OMCカードパンフレット受領

⑥2009年1月8日 OMCアンケート提出

⑦1月13日 群馬県知事署名簿提出

永島 高橋 日吉（山林ネット）

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.11 No.4号 2009年2月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

Web担当：島田 富夫

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-17-5-203 ㈱SEC内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

Web：http://www.geocities.jp/oze_net/

